

日本のまもり 平和を、仕事にする。

将来、陸・海・空、各自衛隊の幹部自衛官を目指して防衛大学校で学び、訓練に励んでいます。



後悔したことは ありません。

防衛大学校第4学年
眞野 雅弘さん
(星城高等学校 第40回生)

高校2年生の時、ふとしたきっかけから私の夢は航空自衛官になりました。その夢の実現のために数ある選択肢の中から防衛大学校への進学を選んだことを誇りに思っています。高校の同窓生が遊びに明け暮れるのを横目に、ひたすら耐え忍び鍛えられた1学年。熱望した航空要員になり航空宇宙工学科に入り訓練、勉学が面白くなった2学年。1年間の韓国空軍士官学校への留学を通して海外の軍隊を体で知り、世界を知った3学年。そして今卒業を控え、指揮官の重責と統率の難しさを実感しています。この4年間辛く厳しいことは幾度とありましたが、一度としてこの道を選んだことを後悔したことはありません。それはここが大学ではなく日本唯一の士官学校だという誇りと、明確な目標を持っているからだと思います。後輩の皆も目標を見据えて頑張ってください。



舞台は世界。

防衛大学校第4学年
山口 高德さん
(星城高等学校 第40回生)

なぜ私が防衛大学校という将来幹部自衛官になる者を育成する学校を志望したかと言うと始めそれは不純な動機からでした。それは試験が無料で受けられ、また試験が他の大学より早い11月にあるので自分の学習のレベルが分かるという、模試を受けるような気持ちで試験を受けました。しかし自分で防衛大学について調べていくととても興味が湧いてきました。実際入学してみると想像以上の厳しい生活が待っていました。ここでしかできない貴重な体験をたくさんしました。東京湾8キロ遠泳、硫黄島での訓練、2夜3日の100キロ行軍とこれらを通してとても成長できました。最後に自衛官という職業の舞台は「世界」です。つまり全員が日本代表なのです。後輩の職業の選択肢にぜひ「自衛官」を入れてもらいたいものです。

卒業後、各自衛隊の曹長に任命され、幹部候補生学校に入校。幹部候補生学校と部隊で1年間の研修の後、3等陸尉・海尉・空尉に任官し、幹部自衛官のスタートに立つ。



【卒業式—最後の帽子投げに、4年間の思い出を託す】



【防衛大学校風景】

防衛大学校には、大学院に相当する「研究科」が設置されており、自衛隊の任務遂行に必要な高度な知識と研究能力修得のための教育を目的としています。



団結して一つの目標を 成し遂げていく。

第46期理工学研究科(大学院)在学
2等陸尉
松山 和史さん
(星城高等学校 第35回生)

星城高等学校を卒業して9年、自衛官として5年が経とうとしています。高校生までは、日本が平和なのは当たりまえ、と思っておりました。しかし、防衛学を学び、国際的見地から日本の国防をみると、自衛隊の重要性や魅力を感じ、自衛官としての人生を決意しました。

自衛隊の訓練は過酷なものです。一人ひとりの力だけでは、到底達成できるものではありません。時には倒れそうになる者もいました。その中で、仲間同士で励ましあい、一致団結して一つの目標を成し遂げていく。この達成感が自衛官の醍醐味だと感じます。

これからも、任務がますます拡大し、自衛隊は重要な地位を占めていくでしょう。それに負けないように、諸先輩方の指導を受け、自己練習に努めていきます。

後輩へ一言

人生は駆け足、とよく言われます。その場に留まるためにも、走り続けましょう。

限りなく広がる海に空、千変万化の自然の中、日々平和を愛する国民の一員として、護衛艦「すずなみ」の乗組員として訓練に励んでいます。



世界平和の維持に貢献。

海上自衛隊第一護衛隊群
護衛艦すずなみ 機関士
2等海尉

加藤 規孔さん
(星城高等学校 第35回生)

私が海上自衛隊を志望した動機は、国内外を問わず様々な地域で勤務し、多くの勉強ができるということです。現在は幹部自衛官として世界の平和の維持に直接貢献できる勤務に誇りを持ち、充足感を感じています。

昨年10月には大韓民国で31カ国が参加した国際観艦式に加わりましたが、ニュース等で報道されている国内外の重要な式典や他国海軍との親善訓練に加わることで、海難事故の救助活動のように、実際に人のために仕事をできることは大きなやりがいの一つと言えます。

今は「幹部」として知識と教養、技術を習得することに努力しておりますが、将来的には、リーダーシップの取れる人物として、より大きな国際貢献の場で働きたいと考えています。

後輩へ一言

皆さんにも一人ひとり、大きな夢があると思います。今は、自分がその職業になったときの華やかなイメージを大事にしてください。そのイメージが目標への大きな原動力になります。

世界の中で直接平和の維持に携わりたい人、人の役に立ちたい人は是非海上自衛隊も人生の選択肢の一つとして考えてみてください。



米海軍補給艦との洋上給油実施時。
(中央 黒帽子の人物が加藤さん)



護衛艦「すずなみ」
基準排水量4,650t 速力30kt

体育学校は、陸・海・空自衛隊共同機関として部隊における体育指導者の育成と体育に関する調査・研究を目的としています。



プライドを持って戦う。

自衛隊体育学校
レスリング班 2等陸尉
加藤 賢三さん

(星城高等学校 第34回生)

私が自衛隊体育学校を選んだ理由は、学生時代に多くの全日本チャンピオンやオリンピック出場等の憧れの選手が在籍していたことです。そして国際選手の育成を目指した体育館・トレーニング場等の充実した施設が完備していたからです。当初は、先輩方の練習についていけず、妥協したり辞めようと思ったりもしましたが、監督や先輩から「自分自身でプラスのイメージを作り、失敗を恐れずに積極的に練習するように」とアドバイスされ、常に真剣勝負で一生懸命練習しました。

衣食住においても規律正しい生活ができ、また疲れた時は、トレーナー班からマッサージ・ストレッチを受けるなど、競技力の向上に集中できる環境の中でプライドを持って試合にのぞんでいます。そしてその集大成が北京オリンピックの出場となりました。

後輩へ一言

高校生活は「あっ」という間に終わってしまいます。自分自身の道をしっかりと決め、思い切って信じた道を歩んでください。

星城高等学校より初めて防衛大学校へ進学、幹部自衛官として活躍された大先輩。現在は実業界でご活躍。

常に自己研鑽、組織の能力向上。

防衛大学校第25期
航空自衛隊 1等空尉OB
間瀬 和哉さん

(星城高等学校 第12回生)

30年以上前になりますが、先生の薦めにより、星城高等学校から初めて防衛大学校に進学しました。防衛大学校は幹部自衛官となる人材を育成する防衛省管轄の大学校で、一般大学以上の学問に加え、防衛学、訓練を行います。私は、航空自衛隊に進み、奈良・三重・埼玉・静岡の部隊、学校を回り、筑波大学大学院へ国内留学、卒業後は市ヶ谷で通信関連の司令部の幕僚として勤務の後、早期退職をしました。

最近の自衛隊は、災害派遣に加え、平和維持活動、国際貢献と多くの場面で活躍していますが、本当はこれらの任務を実行しない方が良い組織であると思います。但し、必要な時直ちに行動に移せるよう、常に自己・組織の能力向上に努めています。

このような組織の中で、常に自己研鑽に励む向上心のある方は、是非進路の一つとして考えてみてください。